

花鳥餘情

七



第十九

若蒙上



僧正慈海



第二十

若蒙下

第二十一

若蒙下

若蒙下

金剛界會三摩耶形之云々
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日

天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日

天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日

天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日

天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日

天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日
天曆六年三月廿七日

入る初言のありきりしははらへる

この大初言の系圖なるははらへる

角一とほはらへる女と女の家と

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

周礼に名古服袴衣袴杖用杖鞠衣展衣縁衣

長限を傳へる命戴歩揺金金瑞明年

冊為貴妃半后服用

かあ初言のありきりしははらへる

唐子内親のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

かあ初言のありきりしははらへる

はきりてはかゝるに候はし後 かくはかゝるに候はし
もくはかゝるに候はし

はきりてはかゝるに候はし後 かくはかゝるに候はし
もくはかゝるに候はし

はきりてはかゝるに候はし後 かくはかゝるに候はし
もくはかゝるに候はし

はきりてはかゝるに候はし後 かくはかゝるに候はし
もくはかゝるに候はし

是れをいふに候はし後 かくはかゝるに候はし

是れをいふに候はし後 かくはかゝるに候はし

西宮抄云と云ふ事 行信奉人如業本 上白業車
檣檣 朱崔院初念出 大月時 業令 傍檣檣 今業唐府云と云ふ事 出牙
出る者也

はきりてはかゝるに候はし後 かくはかゝるに候はし
もくはかゝるに候はし

院の御事云と云ふ事 出る者也

川軍を... 一時... の

...

...

...

...

...

...

...

外記云延長二年正月廿五日御賀中務卿教廣

親王以下同兼捕羽衣執捧物惣女捧年廿一

御奉り御小務次侍以下執折摺杖物果捧果

入自日華華門一列五一列庭中一列五位各奏

物名院内膳心忠望平膳入自月花園受持
物出自同門

この御... 後... の物

御記延喜五年正月廿一日保忠令吹笙曲調頗

比藤日賜梅枝等是故入政大臣照宣云弱冠取兼

和天白皇乃令子羽宿命給之寛平中以甚名物分給之

其後乃宣賜收年令尋的意以賜之

同延喜十七年四月廿二日自返初宣賜收果書法計

收自本納書法百の十七卷往年皆出看竹見又抄所書

不換取今摸寫而院返納本所只難大教本各細

目觀其歌名或有誤謬仍新作目錄一卷細記是

名也長束乃其計謬加以置之欲使集者見之願有分

別冊又加書法之卷足二百卷凡願子細具者有録即令
右近少将伊衛家系人泷行未拾納之

方小録之乃常行其るまわり

付沛極其景行らむらしてくはるり

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

命にまかせたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

あつらひたるもあつらひたる

延和元年十月十日
延和元年十月十日
延和元年十月十日

延和元年十月十日
延和元年十月十日
延和元年十月十日

延和元年十月十日

延和元年十月十日
延和元年十月十日
延和元年十月十日

延和元年十月十日
延和元年十月十日
延和元年十月十日

延和元年十月十日

延和元年十月十日
延和元年十月十日
延和元年十月十日

延和元年十月十日

東大寺 聖武天皇神龜五年始造之、興福寺 不比等和銅三年造山階寺是也
元興寺 推古天皇崇峻天皇元年始造之飛鳥寺本、法興寺
大安寺 皇極天皇元年始造之其後我馬子大臣造之和銅三年遷造之本名百濟寺
藥師寺 天智天皇元年造之天武天皇、西大寺 高野天皇天平勝寶元年創之
法隆寺 聖德太子号伊香留香寺 拾芥 至天平神護元年十七年造畢

延和元年十月十日

延和元年十月十日
延和元年十月十日
延和元年十月十日

延和元年十月十日
延和元年十月十日
延和元年十月十日

延長二年三月十日
延長二年三月十日
延長二年三月十日

延長二年三月十日
延長二年三月十日
延長二年三月十日

延長二年三月十日

延長二年三月十日
延長二年三月十日
延長二年三月十日

延長二年三月十日
延長二年三月十日
延長二年三月十日

延長二年三月十日

延長二年三月十日
延長二年三月十日
延長二年三月十日

延長二年三月十日

延長二年三月十日
延長二年三月十日
延長二年三月十日

延長二年三月十日
延長二年三月十日
延長二年三月十日

昭宣公の自觀十七年甲寅一節にて平七めて
薨^荒公の自信公の延喜十九年甲寅ありて平七
して薨^荒公の例もあきこむるなりつゝ
多しなりしは公の例に
まらなりしは公の例に
中宮のまらしは公の例に
ふまらしは公の例に
られしは公の例に
かんららぬるは公の例に
正月のまらしは公の例に
禊^禊二領中禊言同也一領糸袂紅禊一領非糸袂
四領柳色合小禊一領五位細也一連也

延喜中宮式云親王以下大御言と上各白禊衣二領禊
言三位糸袂白禊衣一領非糸袂三位并四位糸袂
禊衣一領五位禊一連言唱四位五位賜
と葉は白袂の中宮の式もあつてあつて
中宮のまらしは公の例に
と月らるるは公の例に
乃ち公の例に
しは公の例に
しは公の例に
七人寺中寺々しく少納言物功徳錢と施入され
又延長四年古奈院の式もあつて朱萐樹と賑給の
申ありしは公の例に思ふ物なり

河海のあはれん史記のあはれん今事
あはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

このあはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれん

延長二年正月廿二日自宇多院被奉若菜お
内裏院川生物市馬宇多入自日華門御人次市馬寮
給_{内は奉^上宣^百馬寮} _{大退^出上^馬寮}
と案延長乃は賀のあはれんあはれん

穀倉院二條南朱雀西在太宇西納畿内諸國銅錢無主位職田
及没官田太宰稻等諸庄物勤年中饗有公卿及四位五位別當
預藏人等或云朱雀門前

ありて院の中や^福結りて^福を^福内裏に
て^福を^福内裏に^福わ^福く^福は^福後^福あり^福て^福は^福わ^福り^福
官人ありて^福を^福内裏に^福わ^福け^福て^福は^福わ^福り^福
内裏より^福を^福内裏に^福わ^福け^福て^福は^福わ^福り^福
六府の官人ありて^福を^福内裏に^福わ^福け^福て^福は^福わ^福り^福
法皇は御^福を^福内裏に^福わ^福け^福て^福は^福わ^福り^福
時々の定^福を^福内裏に^福わ^福け^福て^福は^福わ^福り^福
是^福乃^福中^福に^福わ^福り^福
萬歳樂平調
賀王恩大食調拾六
これら^福を^福内裏に^福わ^福け^福て^福は^福わ^福り^福
は^福わ^福り^福
あり舞あり^福て^福は^福わ^福り^福
は^福わ^福り^福

は^福わ^福り^福
え^福て^福は^福わ^福り^福
乃^福中^福に^福わ^福り^福
延長三年十二月五日申^福に^福わ^福り^福
宴^福酬^福た^福た^福は^福わ^福り^福
廂^福當^福座^福疏^福大^福長^福牙^福一^福執^福此^福為^福大^福長^福清^福和^福御^福時^福書^福
元清和七
御^福時^福茶^福珠^福歌^福等^福春^福号^福轉^福付^福本^福次^福八^福条^福申^福納^福言^福執^福琴^福瑟^福
次^福琴^福今^福等^福和^福琴^福或^福は^福新^福と^福同^福と^福大^福長^福茶^福白^福右^福文^福奉^福申^福
貞^福大^福長^福譜^福以^福次^福稱^福名^福了^福兼^福平^福四^福年^福三^福月^福九^福日^福奉^福仕^福申^福
文^福御^福時^福書^福
貞信
不^福乃^福録^福退^福出^福進^福給^福禄^福并^福平^福跡^福和^福琴^福瑟^福
万^福葉^福集^福入^福苜^福二^福合^福し^福兼^福延^福長^福二^福年^福の^福少^福賀^福此^福御^福川^福
出^福物^福申^福文^福あり^福内^福裏^福下^福り^福也^福ら^福り^福又^福同^福と^福奉^福申^福

過現因果經云至善普光佛乃慈行也。出與于世亦時善慧心
人因于五百外道論議破其異見。取五百金來為弟子者
以銀錢一枚上之善惠。因佛出與。今燈照王迎請。倍養
較手鼓唱。令國內名花皆不得買。悉以輸王。善惠心
因之大懊惱。欲訪花。所忽遇。明佳夫持花七莖。與王
剖令藏著。稱中善惠。至誠感花。踊上。追呼。就買。此女
不言當送。內宮。欲以佛不可得也。善惠告言五百
銀錢。雇五莖花。明佳夫問曰。欲花何用。善惠答曰。為欲成
言。欲以獻佛。明佳夫又問。欲佛何為。善惠答曰。為欲成
就一切種智。度脫眾生。明佳夫答言。今此男子乃志
誠。不惜錢寶。而語曰。我今當以計花。相與。願我生
常為君妻。善惠答言。我依梵行。求無為道。不得相

許生死。緣明佳夫即言。不從我願。花不可得。善惠
又曰。汝若決定。不與我花。當從汝願。我好布施。不違人
意。若使有求。從我求。乞願。目龍。龍及子。妻子。汝莫生疑。
壞吾施心。明佳夫答言。敬從。奉命。今我女弱。不能得前
併寄。二花。以獻。於佛。使我生。不失。計願。好醜。不難。必
置心中。令佛。知。時。灯照。王。領諸官。廣持。妙香。華
種。供具。出。我。迎佛。王。臣。禮敬。散。獻。名花。志。墮。地。
善惠。見。諸人。俱。供養。畢。已。諦。觀。如來。相好。容。顏。滿
種。智。度。復。來。生。故。則。散。五。花。皆。任。空中。化成。花。草。一
後。散。二。莖。亦。上。於。空。亦。時。王。氏。龍。天。八部。見。此。奇。特。
歎。未。嘗。有。於。是。善。克。如。來。讚。曰。善。哉。汝。以。是。行。過。
信。祇。劫。當。得。成。佛。身。曰。釋迦。牟尼。既。授。記。佛。蓮。行。處。

善き人となす事むらうのりくしん
りくしんは作をを善くするの徳を
んくする事むらうの徳を
徳ありたぬの事むらうの徳

水くさきくたふく徳を

徳成り徳代くそ宿と徳部くまむ何宿

徳樹くくくく徳徳く徳く徳く

くくくく

く国くくくくく事くくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

とておのころはあつたか
Tues 11

。今^十桐のきつて ^{かき}石集り

のまじりたる本はよきものなり
とておのころはあつたか

とておのころはあつたか
とておのころはあつたか

とておのころはあつたか
とておのころはあつたか

とておのころはあつたか
とておのころはあつたか

とておのころはあつたか
とておのころはあつたか

とておのころはあつたか
とておのころはあつたか

とておのころはあつたか
とておのころはあつたか

とておのころはあつたか
とておのころはあつたか

とておのころはあつたか
とておのころはあつたか

とておのころはあつたか
とておのころはあつたか

とておのころはあつたか
とておのころはあつたか

行り升給り冷泉院

帝より系圖云弘仁十一年四月より延平冷然院
十七日讓位お白より天子天曆八年三月十日改冷然

院為冷泉院

と僧院の行り升行わる冷泉院のつらおつ後
つねとあり御清心よりつらつらとせしめし
多きと思ふやまの事ありて

冷泉院の成りたる系院のつらつらと系圖より
よりは下のつらつらつらつらつらつらつらつら
とつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
将戸のつらつらつらつらつらつらつらつらつら
業平のつらつらつらつらつらつらつらつらつら

一代よりつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

源氏のつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

長保六年九月十日御堂河内時下隨身家

奈石清水并住吉給東極神未未と
と兼源氏系相具其基上系相信者之准
はく才て志く可くは身もやけ業も
くたらまのいんやありき

交野大領孫益女之藤之客通生女之兼喜
淑女後の生延喜帝

舞人書の十人石清水賀の條時意の
舞人書の十人石清水賀の條時意の
舞人書の十人石清水賀の條時意の
舞人書の十人石清水賀の條時意の

舞人書の十人石清水賀の條時意の
舞人書の十人石清水賀の條時意の
舞人書の十人石清水賀の條時意の
舞人書の十人石清水賀の條時意の

云位者や一人を道へのしつれは
ふれを兼喜の射る物春日意と
舞人陪後書の言の意は
兼喜の言の意は

田書の十人石清水賀の條時意の
舞人陪後書の言の意は
兼喜の言の意は
兼喜の言の意は

かゝる人の子を漢家申す多しある
申す又清浦さるる海軍のころる
のらうたのふれいあき新なる時
とあやまらしてあやむつたは海軍の
統制をめぐりての風例
いりてま

ふいしうふあまて 神楽の神楽

の通

入道のふいしうふあまて 朱雀流

れいし

二ふりて清あまてま

禄令一品親と封六百戸 位田六十町 三品食封四百戸
禄令一品親と封六百戸 位田六十町 二品食封四百戸
位田五十町 四品食封三百戸 位田四十町 内親王位十

百戸を位田二ふ六十町三品食封四百戸
封減半 位田減三分一

と案二ふ内親と封二十五戸 位田十町 行海

いりてま

このまゝいりてま

女二ふいし

いりてま

樂書曰所文之象易寒暑者深冬之感動凡

雷之禮琴乎之琴書曰所曠音之樂宮之上

於取能易寒暑者凡雨為吾年之敷之感玄鶴

六下舞

いりてま

月夜の静けさ
なほとていふ

月夜は静けさ
朱雀院のまはる

わきまをわきま
わきまをわきま

わきまをわきま
わきまをわきま

わきまをわきま
わきまをわきま

わきまをわきま
わきまをわきま

わきまをわきま
わきまをわきま

わきまをわきま
わきまをわきま

わきまをわきま
わきまをわきま

わきまをわきま
わきまをわきま

わきまをわきま
わきまをわきま

わきまをわきま
わきまをわきま

樂書之琴動天地感鬼神

こころあはれきつりつりあはれ

波羅門信正始渡本朝之但允奉天自文武天

皇と彈琴^琴給

きんこころあはれきつりつりあはれ

よあはれきつりつりあはれ

わらわらあはれ

院のあはれきつりつりあはれ

うらやまきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

あはれきつりつりあはれ

院乃らるるにまゝあまひこよひくらくを

この院の朱雀院とあり

とよまはしむるにあらむとあり

あつたふのさるるにむかひのちかひに

なまはしむるにあらむとあり

けいりやうとあり

多しとあり

中納言相當從三位 殿原

あつたふのさるるにむかひのちかひに

なまはしむるにあらむとあり

けいりやうとあり

多しとあり

あつたふのさるるにむかひのちかひに

なまはしむるにあらむとあり

けいりやうとあり

あつたふのさるるにむかひのちかひに

なまはしむるにあらむとあり

けいりやうとあり

あつたふのさるるにむかひのちかひに

なまはしむるにあらむとあり

けいりやうとあり

あつたふのさるるにむかひのちかひに

なまはしむるにあらむとあり

けいりやうとあり

あつたふのさるるにむかひのちかひに

花身餘清牙才一

栢木 横糸 鈴虫

才一栢木

以何再新あ春若海式甲八歳の春より栢木才一の
事カレこころしきりる能生しけり

こころあはれりあしきか

まじいらいふあまのまじりうらみあまのまじり

あまのまじりあまのまじりあまのまじり

あまのまじりあまのまじりあまのまじり

女まじりあまのまじり

あまのまじりあまのまじりあまのまじり

あまのまじり

あまのまじりあまのまじりあまのまじり

たれあまのまじりあまのまじりあまのまじり
あまのまじりあまのまじりあまのまじり

世徳物神時平と三男新忠申納言心ちりりりりり

時業神経とよも也ゆるまは神のちりりりりり

大將とらまはまきしてわらひりりりりりりりりり

きりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

石大弁の若 紅栢の石大弁ける石大弁り

あまのまじり

あまのまじりあまのまじりあまのまじり

あまのまじりあまのまじりあまのまじり

あまのまじりあまのまじりあまのまじり

あまのまじりあまのまじりあまのまじり

冷泉院

あつた人徳をいそりたつてまはたみし
これをもとまはる事

いそりたつてまはる事

政を奉る徳のあらからん事

いそりたつてまはる事

人徳をいそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

清かり物いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

向秀^{コウシウ}遺^{コウシ}山陽^{コウシ}白居^{コウシ}思^{コウシ}統^{コウシ}二康^{コウシ}周^{コウシ}津^{コウシ}人^{コウシ}吹^{コウシ}笛^{コウシ}作^{コウシ}思^{コウシ}同^{コウシ}賦^{コウシ}

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

いそりたつてまはる事

文選^{コウシ}第^{コウシ}賦^{コウシ}之^{コウシ}辞^{コウシ}取^{コウシ}米^{コウシ}議^{コウシ}用^{コウシ}泉^{コウシ}音^{コウシ}根^{コウシ}精^{コウシ}

無
作
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

院
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

信
名
增
島
彦
市
道
室
秀
夏
信

